民報 あばしり
NO.1248
12月22日号
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL 四二一－四四五八
FAX 四二一－四四五七

12月議会 村椿議員の一般質問

障がい者の雇用について

問　障がい者雇用状況について伺う。

答　福祉施設Ａ型は１事業所31名、Ｂ型は６事業所74名。一般企業はハローワーク管内に45社76名。網走市のみの実態把握に努めていく。

問　差別や虐待への対応は？

答　虐待については市が窓口となり、北海道が実地指導する。虐待に至らない場合は市が事業者に状況確認し、口頭指導をしている。

問　支援員の教育や研修が虐待防止につながる。研修の実施状況は？

答　事業所ごとの研修については市は把握していない。

村椿議員は事業所ごとの研修について把握するよう求めました。

日体大附属高等支援学校について

問　Ｈ25年度以降の事業着手後の事業費は？

答　土地建物、走路、設備で６億９３００万円。走路の２分の１は国からの交付金を、設備には「ふるさと基金」を使用しており、実質市の負担は３億１００万円になる。

問　今後かかる経費はあるのか。学校側との協定はあるのか。

答　協定を27年に結んでおり、今後、日体大が必要とする施設の整備を聞き、その中で判断する。

環境問題について

問　地球温暖化対策は待ったなしの状況であり、網走市の対策は？

答　ストップ・ザ・温暖化のチラシにて啓発や市民アンケートの実施などをしている。

問　生ごみたい肥化による効果は？

答　年２１４５ｔのＣＯ２削減となっている。

村椿議員は分別が「温暖化ストップ」につながることを宣伝するよう求めました。

バイオマス発電所について

問　燃料は何を使用しているか

答　森林伐採時に出る林地残材（今まで現地廃棄）を現場でチップ状にして運んでいる。

問　昨年のブラックアウト時にバイオマス発電所や太陽光発電の電気が使用できればよかったと思うが、切り替えることは可能か。

答　需要と供給のバランスなど、現在はできない。

村椿議員は、調査・検討するよう求めました。また、岩手県の久慈市では６つの会社と市が出資して電気の小売事業（再生可能エネルギーを使用する）を立ち上げ、地域内経済循環による持続可能な地域経済基盤をつくり、地域経済の自立と雇用の拡大を進めている。市に調査・検討を求めました。

2020年「新春のつどい」のお知らせ

- **日時：２月２日（日）12時開会**
- **場所：エコーセンター２階大会議室**
- **会費：１０００円**

※11月号後援会ニュースで１月19日開催とお知らせしましたが、都合により変更になりました。

桜を見る会 ちょっと待ったメモ！

最近の世論調査では、安倍内閣の支持率は11月の前回調査から６ポイントと大きく下がり42・７％、不支持率は43％と支持するより上回りました。また、安倍首相主催の「桜を見る会」の疑惑について首相が「十分説明しているとは思えない」は83％を占め、自民党支持層の73％。公明党支持層の91％にも達していて、安倍首相の公的行事の私物化疑惑が与党支持層にまで大きく掘り崩している実態を反映しています。

さらに、日本経済の先行きに「不安」「ある程度不安」を感じているとの回答は87・９％に上るなど破綻したアベノミクスや消費税増税による経済への影響に対する国民の不安の強さを示しています。このように、どの調査を見ても安倍内閣への不満・不安が色濃く出ています。

今こそ、安倍政権を倒すチャンスがきています。年が明けたら更なる「アベ辞めろ」の世論を高めましょう。

「桜を見る会」を風化させてはなりません。

村ちゃんが駆ける

12月議会の一般質問が終わった。質問の準備で市役所やハローワークなどに話を聞いたが、障がい者の働く場はまだまだ少ない現状である。また、差別や虐待がされないよう、支援者への教育や研修を事業者は実施すべきである。質問では言いたいことがなかなか伝わらず、勉強不足、準備不足を感じた議会であった。

今年の冬はどんな冬になるのだろうか。雪も少ないし、気温も高めで温暖化の影響を感じる。父が冬は造材を山から馬で出す仕事の帰りに林地残材を集めてきて薪ストーブを焚いていた。私が網走に就職すると、父は美幌から薪を運び、以来、私も薪ストーブを焚いている。

灯油ストーブも暖かいが、薪は遠赤外線でジワーっと暖かい。忙しくて薪割りできずにいると子どもが手伝ったり、薪運びもしてくれた。子育てにも役に立つし、化石燃料を燃やさないから地球温暖化対策にもなる。薪割りはダイエットにもなるので、これからも続けたい。

流氷

みんな一生懸命生きている

▼世界のなかで、「ジェンダー平等」は今や共通語になって来ているように思います。「ジェンダー平等」とは『男・女は（こうあるべき）だと言う社会的・文化的に作られた差別』だそうですが、私の中にも知らずしらずのうちに、それを容認している自分がいることにハッとすることがあります。▼たとえば、新聞を読んでいるだけの私が、年末の掃除をしている妻に「お茶飲もうか」と催促をしている自分がいます。私が「お茶が入ったから」と言った方がずっと自然なような気がします。日本社会の中で知らずしらずのうちに、「女はうちの中の事をするもの」と思い込まされてきたのかもしれません。周りのみんなと話しても、「男女平等、どんな個人も尊重される」と頭の中ではわかっていても、そうはなっていないことがあるようです。▼さらに国の政治に「ジェンダー平等」を広げるためには、それを敵視するような言動を繰り返す安倍政権には退場していただかねばなりません。今のアベ政治では、すべてが『自己責任』にされてしまいます。冗談ではありません、みんな一生懸命生きているのだから。

菊地